小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 瑞穂会	代表者	手嶋 寛人	法人・ 事業所 の特徴	高齢者家族の利用者・家族が働きながら介護をされている利用者・訪問リハビリを利用されている利用者など多様な利用者を受け入れ在宅生活・在宅介護の支援を行っている。利用者や家族の状態、状況変化や要望に応じての通い・泊りや利用時間の変更等にも柔軟な支援を心掛けている。
事業所名	小規模多機能 やはぎ苑	管理者	後藤 恒祐		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	2人	5人	人	1人	1人	人	人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今回できている項目を継続しつつ、できていない地域との関りや質の向上についても意識して業務に取り組む。	利用者や家族に対する直接的な支援は概ね良い評価とする事ができたが、地域との関りについてはほとんどできていない。研修による質の向上は前回に比べ取り組めた。	・事業所自己評価の説明の際に専門的な用語があり、分かりづらかった。 (自分たちも意識せずに専門用語を使用している時もあり、より分かりやすい説明に心掛けたいと思います。)	事業所自己評価項目及び改善計画を通して多機能の支援の在り方やより良い介助を意識して支援に取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所内の衛生管理・環境整備を心がけ、清潔で居心地の良い事業所作りに取り組む。また、感染症対策にも配慮する。	感染症対策に配慮しつつ、衛生管理や環境整備を心掛け、清潔な環境を提供できた。	・特になし	日々の清掃や整理整頓を心掛け清潔で居心地の良い環境の維持に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	日中活動や地域行事への参加を通して利用者・職員が地域との繋がりを意識し支援・介助に取り組む。	町内子供神輿の来苑や散策行事の再開等コロナ以前に近い状態には戻りつつあるが、十分な関りとまでは至っていない。	・特になし	散歩や外出行事、地域行事への参加機会を増やし、地域との関りに配慮した支援を行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域にある地域資源の一つとして、包括や町内会等の様々な機関と連携協力をする。	はしめ包括との連携やお米作りへの参加はできているが、外部の機関との関りや連携はほとんどできていない。	・町内の人でも、いざ介護で困ってもどこに相談したらよいか分からない人が沢山いる。もっと施設について周知していけると良いのでは。 (最初の相談窓口は地域包括支援センターが担っており、多機能へ相談にみえた場合も包括へ繋いでいくことになる。包括への相談は年々増えおり、回覧板やサロンへ出向いての周知活動にも取り組んでいるが、本当に困った時にしか意識されない等周知活動にはまだまだ課題が多い) ・包括支援センターが全国で整備されているのならば、もっと国が主導した周知活動があっても良いのでは。	引き続きはしめ包括との連携やお米作りへの参加を続け、地域への資源の一つとしての周知・広報活動の方法を検討する。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議を通して小規模多機能への理解が深まるように施設見学の機会を設ける等改善を行う。	コロナ禍ではできていなかった施設見学を再開する事ができ、運営推進会議を通して多機能の現状や取り組み等の報告ができた。	・特になし	今後とも運営推進会議を通して 事業所の取り組みや改善点を報告・相談する。
F. 事業所の 防災・災害対策	実際に利用者也参加しての屋外や垂直避難の訓練を行う。	年に2回の防災訓練を通して、防災意識を高めることができた。また、利用者も参加しての避難訓練も実施できた。	・テレビで福祉施設の垂直避難の大変さを放送していたが、どれくらいを時間や労力がかかるのか？ (地域がら台風等による水害が想定されるが、地震や津波と違い事前に被災が想定できる為に原則は自宅へ帰宅する手段を考えている。また、エレベーターが動いているうちの早期避難も考えている。急な停電等にも備え、人力での垂直避難の訓練等も検討していきたい。)	防災訓練・避難訓練を通して防災意識を高め、利用者も参加しての訓練を行う。